



岩手県
雫石町

趣味の会を立ち上げて、仲間を増やす

岩手県雫石町老人クラブ連合会

●クラブ数 43クラブ ●会員数 1,440名(男性664名、女性776名)

雫石町は秋田県境の麓にあります。当町のキャッチフレーズは『山と牧場と出湯の町』といわれ、農業と観光を主産業とする町です。今から10年ほど前は人口が約20,000人近くおりましたが、年々減少し、平成27年2月末には17,527人となりました。約12・5%の人口減少であり、少子高齢化の流れは止まらず、高齢化率も31・5%という超高齢社会となっております。町当局もこの人口減少対策に苦慮しているところがあります。

魅力ある活動として、三つの趣味の会

しかし一方で、雫石町老人クラブ連合会の

介します。

まず手がかりを得ようと思い、町内の小さな麻雀好きな集団に声をかけようと思いました。仲間の家や公民館で楽しんでいたグループです。しかし面識のない人たちに対して、話のしようがありませんでした。幸いこの集団を知っていた、理解の深い友人の元町会議員の方を通して、話をしてもらいました。

それでも、麻雀の道具や会場、経費などの様々な問題があり、話がうまく進みませんでした。ここに大変な苦勞がありました。結果として、「麻雀の会」の会則を作り、12名に老人クラブに加入してもらいました。しかし、さらに人数を増やすためには麻雀の道具や会



麻雀同好会

会員の動向は、平成20年度47クラブ・会員1,740名であったのが、23年度44クラブ・1,537名、26年度43クラブ、1,440名と、6年間で会員が300人減少しており、平均1年間に50人ずつ減っていることになりました。老人クラブの会員を増やそうとしています。老人が増加しているにも関わらず、老人クラブ会員が減少しているという事実は深刻な課題であります。

その原因はいろいろあると思いますが、その一つとして、老人クラブの活動に会員をひきつける魅力がなくなつたのではないかとこのことを考えております。この事実から、会員を増やすには、魅力ある活動を計画して実施することだと思いました。そこで、洋蘭を栽

趣味の会をさらに広げたい

場、経費を増やさなければなりません。あちこち駆けずり回り、会場は社会福祉協議会の大会議室を借りることができました。24名の人に入会してもらいました。そしてこの3月に大会を行い、新たに8名会員が増えて、合計43名になりました。現在、さらに8名の方々に入会を奨めております。

「麻雀の会」の会員たちはクラブ活動に参加しながら、月1回麻雀を楽しんでいます。

趣味の会の立ち上げは、簡単にできるものではありませんでした。その場の人たちの雰囲気、環境によって、何ができるのか決まってくるように思われます。また、ただ口先だけで話していただけではダメです。こちらが骨身惜しまず積極的に働き出して、誠実に対応すること、心の通う友人をつくるということが大事だと痛感しました。

これから先、今実施している『趣味の会』をもっと増やしたいと思っています。そのためには趣味の内容に関心の高いリーダーを見つけてなければなりません。その他にも様々な課



洋蘭栽培教室



書道教室

「麻雀の会」の立ち上げ

趣味の会のひとつ、麻雀の会を立ち上げた際の超えなければならなかった苦難の壁を紹介する会・書道の会・麻雀の会といった、三つの趣味を活かす会を作ったわけです。

題はありますが、機会を得て新たな会を立ち上げたいと思っています。

老人クラブ100万人会員増強運動に備えて、1単位クラブ年間2名の会員を増加できれば5年間で目標が達成できるといふ計画が岩手県老連から出されており、それに向けて頑張っていきます。

(会長 佐々木正志)